

2 水路周辺の土地利用

灌漑水路による導水の目的のひとつに水田経営が考えられるが、流域のどの程度の範囲に水田が伴うのかはわからない。SD45 では花粉分析から当時の植生復元を試み、イネ科花粉の 50% 以上をイネ属花粉が占める結果を得て、9 区の SD45 周辺には水田が広がっていた可能性が指摘されている(第 4 章第 1 節参照)。少なくとも上東原遺跡の基幹的灌漑水路である SD45 の流域には水田が広がっていたとみていいだろう。また、SD42 は 6 区で湾曲せず直線的に伸びていたとしても SD45 には接続する。湾曲は地形的な理由によるものかもしれないが、湾曲部分には護岸目的の杭列らしき遺構も確認され、流路の維持が図られていたと推測できる。そうであれば、水路の周囲は草原や放棄地ではなく、たとえば水田のような土地利用が行われ、それによって流路が規制されていたとも考えられる。

3 水路と集落

中期後葉には 1・2 区で竪穴建物や掘立柱建物が展開し、近隣に水路が掘削される。一方、SD42・45・58 が開削され水路網が大規模となる後期後半には居住遺構は確認できない。やや広い範囲でみると、大下遺跡には後期後半の竪穴建物 2 棟があり(第 3 章参照)、太田原高州遺跡では区画墓内に堆積した後期後半のおびただしい土器量から直近に居住遺構の存在が考えられる。上東原遺跡の後期後半の水路群から最も近い大下遺跡までは 300m 近い距離がある。

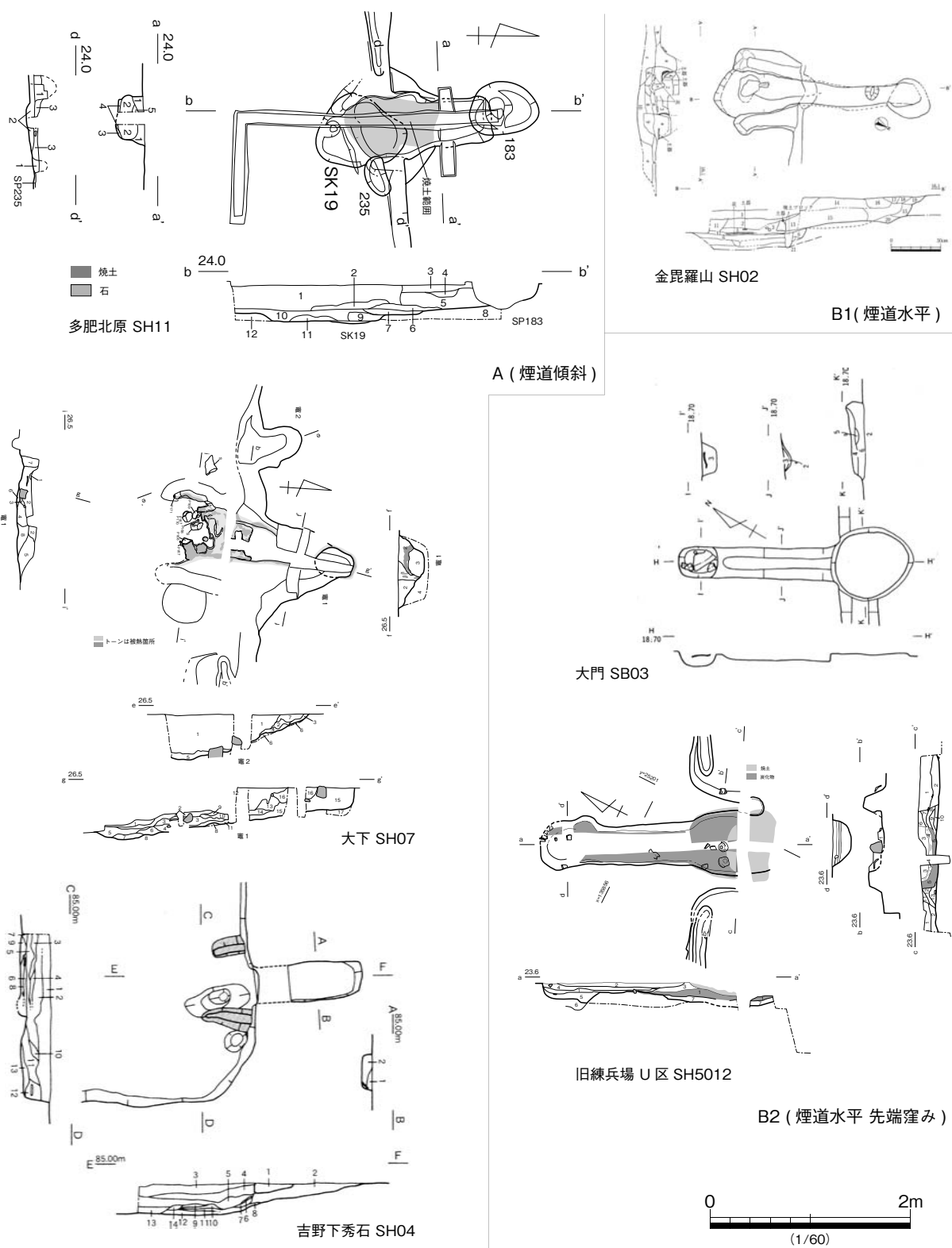
中期中葉を中心とする多肥松林遺跡や日暮・松林遺跡などでは居住遺構と水路は比較的近接して築かれる。後期後半では、空港跡地遺跡のように居住遺構のある微高地上を水路が通る例もあるが、水路のみが確認される遺跡も多い。中期とは異なり、後期後半は必ずしも水路に近接して居住遺構が築かれるわけではないのである。中期に比べて後期の遺跡数は増加するものの、その割に居住遺構がさほど増えない状況(信里 2008)は、居住域から離れた場所にも水路が開かれることの表れであろう。水路を水田を含む農業などの生産にかかわる遺構であるとすれば、生産の場が居住域から多少離れていても管理可能であったともいえる。後期後半には、中期に比べて、居住域から生産の場へ関与する範囲(領域?)が広がっているのかもしれない。

第 2 節 地域差からみた大下遺跡の造り付け竈

1 大下遺跡と周辺の造り付け竈

大下遺跡では TK217～46 型式並行期(以下、～期とする)の竪穴建物 15 棟が検出されており、うち 4 棟は造り付け竈(以下、竈とする)をもつ。残りの 11 棟の竪穴建物についても、四辺が検出されていない、削平を被っているなどの状況から竈を伴っていた可能性がある。残存しているものに限れば、大下遺跡の竈はいずれも置き土で床面から袖部が立ち上がって燃焼部を構成する。特に良好な残りの SH07 を例にすれば、掛け口は 1 口で、燃焼部床面には支脚となる礫 1 石を有する。地下構造の煙道は、オープンカットで溝状に掘削された後、地下が筒状の空間になるよう天井部が埋め戻されている。煙道は約 10°の緩やかな傾斜をもって伸び、先端部で垂直に立ち上がって煙り出しにいたる。

大下遺跡から 900 m 東に位置する多肥北原遺跡では 9 基の竪穴建物で竈が確認されている。このうち、



第 123 図 竈分類図

遺跡	遺構	時期	建物長軸(m)	建物短軸(m)	方位位置	軸構造	煙道長	煙道構造	焚口	支脚	備考	文献
金尾眉山	SH02	MT15	5.4	5.2	北(中央)	置き土	1.3	B1	窪みややあり	石1	煙道はトンネル状	香川県埋蔵文化財調査センター編 2000
南天枝	SH02	TK217	3.9	3.5+	北	置き土	(不明)	(不明)	窪みなし			香川県埋蔵文化財調査センター編 2003
空港跡地	SHa05	TK47	4.2	1.8+	東(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みややあり		二つ掛け横並び	香川県埋蔵文化財調査センター編 2002
空港跡地	SH1	TK23	5.5	4.7	北(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みなし			高松市教育委員会編 2011
空港跡地	SH5	TK47	3.8	3.1	北(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みなし			高松市教育委員会編 2011
多肥北原	SH01	TK217	41+	20+	北(東寄り)	置き土?	1.0+	A	窪みなし			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH02	TK217	3.8+	3.8	北(中央)	置き土	1.0+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH06	TK217	4.2	2.3+	北(中央)	置き土	0.7+	A	窪みなし			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH08	TK217	5.6	4.2	北(中央)	置き土?	0.6+	A	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH09	TK217	4.0	3.1+	北(中央?)	(不明)	(不明)	(不明)	窪みなし?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH11	TK217	4.0	2.9+	北(中央)	置き土	1.4	A	窪みややあり		煙道の天井は構築	香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH13	TK217	5.0	3.8+	北(中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	SH14	TK217	3.8+	1.8+	北(中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
多肥北原	BHS01	TK217	4.2	1.2+	北(中央)	削り出し	0.5+	(不明)	窪みなし			香川県埋蔵文化財センター編 2013
大下	SH04	TK217	4.8	4.0	北(中央)	置き土	0.7+	A	窪みややあり			(本書)
大下	SH05	TK217	4.8	4.3	北西隅?	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			(本書)
大下	SH06	TK217	5.0	4.7	北(東寄り)	置き土	(不明)	(不明)	窪みややあり			(本書)
大下	SH07 竈 1	TK217	6.2	5.4+	北(中央)	置き土	0.9	A	窪みなし	石1	煙道の天井は構築	(本書)
大下	SH07 竈 2	TK217	6.2	5.4+	北(中央)	(不明)	0.5+	A	窪みなし			(本書)
大下	SH24	TK217	3.7	3.2	西(中央)	置き土	0.4+	(不明)	窪みややあり			(本書)
下川津	SH Ⅲ 01	7c	4.1	3.2	北(中央)	削り出し?	0.3+	A	窪みなし			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 02	TK217 ~ 46	5.4	5.3	北(中央?)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 03	TK217 ~ 46	4.9+	3.9	北(中央)	削り出し?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 04.2	TK217 ~ 46	4.1	3.9	北(中央)	削り出し?	(不明)	(不明)	窪みあり?			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 07	TK217 ~ 46	6.3	3.4+	北(中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 08	TK217 ~ 46	7.0	4.0+	北(中央?)	削り出し?	(不明)	(不明)	窪みなし?			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 13	TK217	5.3	2.4+	北(中央)	削り出し?	0.8+	A	窪みなし			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 14	TK217 ~ 46	5.8	5.3+	東(中央)	削り出し?	1.2+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 19	7c	3.2	2.6	北東(中央)	置き土?	0.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 22	TK209	5.2	5.0	北西(中央)	置き土?	0.4+	(不明)	窪みややあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 23	TK217	5.0+	4.8+	東(中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窪みなし?			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 24	7c ?	4.1+	3.8+	北(中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窪みなし?			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 25	TK209	5.6	4.1+	東(やや南寄り)	置き土?	(不明)	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 26	TK217	4.5	4.3	北西(やや南寄り)	置き土	0.7+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 27	TK209 ?	4.2	3.8+	東(やや北寄り)	置き土?	(不明)	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 28	TK209	4.8	4.3	北(中央)	置き土?	0.7+	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 29	TK209 ~ 217	4.6	4.1	北(中央)	置き土?	0.4+	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 32	TK217	5.9	5.6	北西(中央)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 34	7c ?	5.7	5.4	北(北西隅)	置き土?	0.2+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 35	TK209	5.2	5.3	北(中央)	置き土?	0.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 36	TK43	5.3	4.4+	北(中央?)	置き土?	0.2+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 37	TK209	5.2	4.3	北(中央)	置き土?	0.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 38	TK217 ~ 46	3.8	3.5	北(東より)	置き土?	0.5+	(不明)	窪みややあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 39	TK209	5.8	4.6	北(中央)	置き土?	1.4+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 40	TK217	5.4	5.2	北(中央)	置き土?	0.3+	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 45	TK209 ~ 217	4.9	4.8	北(中央)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 47	TK217	4.8	4.7	北(中央)	置き土?	0.5+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 48	TK209	5.2	4.9	北(中央)	置き土?	0.1+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 49	TK217	6.1	5.0	北(中央)	置き土?	0.3+	(不明)	窪みややあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 50	TK209 ?	4.6	4.3	北(中央)	置き土?	0.1+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 51	TK217	4.5	3.1	北(中央)	置き土?	0.1+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 53	TK209	4.8	4.1	北(中央)	置き土?	0.6+	(不明)	窪みややあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 55	TK217	4.4	4.0	北(中央)	削り出し	0.7+	A	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
下川津	SH Ⅲ 56	7c	3.6	3.3	東(中央)	置き土?	0.1+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1990
川津川西	SH02	TK217 ?	3.3	3.2+	北(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みなし			香川県埋蔵文化財センター編 1999
川津ノノ又	SH04	7c 末~8c 初	3.3	3.2	北西(中央)	削り出し?	0.4+	B1	窪みなし			香川県埋蔵文化財調査センター編 1997
川津ノノ又	SH05	TK217	5.5	5.4	北(中央)	削り出し?	0.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財調査センター編 1997
川津ノノ又	SH03	TK217 ~	4.9	4.9	西(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みあり			香川県埋蔵文化財調査センター編 1998
佐古川・産田	SH07	TK217	5.2	5.1	北(中央)	やや削り出し	0.5+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2006
俊正	SH01	TK43	4.9	4.7	北(中央)	置き土	0.6+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2008
俊正	SH02	TK43	4.7	4.2	北(中央)	置き土	1.3+	A	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2008
山田下古田	SH01	TK209 ~ 217	4.2	2.5+	北(やや東寄り)	(不明)	(不明)	(不明)	窪みややあり			綾川町教育委員会編 2007
山田下古田	SH02	TK217	5.1	3.9+	北(やや東寄り)	(不明)	(不明)	(不明)	窪みあり			綾川町教育委員会編 2007
山田下古田	SH03	TK217	4.5	3.6	北(やや東寄り)	(不明)	(不明)	(不明)	窪みなし			綾川町教育委員会編 2007
山田下古田	SH06	TK209 ~ 217	3.2+	1.5+	北(やや西寄り)	(不明)	(不明)	(不明)	窪みややあり			綾川町教育委員会編 2007
山田下古田	SH07	TK209 ~ 217	2.6+	1.5+	北隅	(不明)	(不明)	(不明)	窪みなし			綾川町教育委員会編 2007
吉野下秀石	SH03	TK43	5.4	4.4	北(東寄り)	置き土	1.5+	A	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH04	TK43	3.9	3.0	北(東寄り)	置き土	1.1+	A	窪みあり		煙道はトンネル状	香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH05	TK43	4.3	3.6	北	置き土?	1.7+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH06 竈 1	TK43	6.3	4.9	北(中央)	置き土	1.2+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH06 竈 2	TK43	6.3	4.9	北(中央)	置き土	1.1+	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH07	TK43	5.7	5.1	北(中央)	置き土	1.3	B2	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH08	TK43	6.8	5.4	北(中央)	置き土	1.5	A ?	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH09	TK43	3.9	3.2	北(中央)	置き土	0.6+	A	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH10	TK43			北?	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH11	TK43	4.4	3.4	北(中央)	置き土	(不明)	(不明)	窪みなし			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH12	TK43	5.4	5.0	北(東寄り)	置き土	0.9+	B ?	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH13	TK43	6.1	5.1	北(中央)	置き土	(不明)	A	窪みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
吉野下秀石	SH14	TK43	5.4	4.8	北(東寄り)	削り出し	0.3+	A	窪みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2007
西国学院大学構内	聖穴住居 2	TK209	6.4	4.6+	北西	置き土	(不明)	(不明)	窪みややあり	粘土塊 1		善通寺市教育委員会文化振興室編 2003

第 11 表 香川県内聖穴建物造り付け竈一覧(1)

遺跡	遺構	時期	建物長軸 (m)	建物短軸 (m)	方位位置	軸構造	礎道長	礎道構造	焚口	支脚	備考	文献
四国学院大学構内	聖穴住居 4	TK217	7.8	6.3	北西 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり	造り付け 1		普通寺市教育委員会文化振興系編 2003
四国学院大学構内	聖穴住居 5	7c ?	5.8	5.6	北西 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みややあり			普通寺市教育委員会文化振興系編 2003
旧練兵場	I 区 SH2001	TK43	5.5	29+	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5006	TK43	4.0	21+	北 (中央?)	置き土?	12+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	Q 区 SH5004	TK209 ~ 217	6.3+	0.3+	北 (中央)	置き土?	1.5	B 1	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5013	MT15	4.9+	4.5+	北 (中央?)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5014	TK47	3.6+	1.8+	北 (中央?)	置き土	(不明)	(不明)	窯みなし?	石 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6002	古墳中期	21+	17+	北 (中央?)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)		焼土集中部のみ、電ではない可能性も	香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6003	MT15	3.6+	3.0+	西 (中央?)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6013	TK43	5.1+	2.8+	北 (やや東寄り)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6014	TK209	4.7	29+	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みなし?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6015	TK43	6.0	5.5	北 (中央?)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6018	MT15	5.1+	4.6+	北 (やや西寄り?)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みなし?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6021	TK43	5.8	5.6	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6023	TK10	4.8	4.0+	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	M 区 SH6025	TK10	3.7+	2.8+	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	N 区 SH7311	TK43	4.3+	3.9+	北 (中央?)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり		焼土を含む落ち込みのみ	香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	O 区 SH8001	TK209	5.2	4.4+	北 (中央)	置き土	0.6+	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	Q 区 SH3001	TK209	5.6	5.4	西 (やや北寄り)	置き土	0.7+	B1	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	Q 区 SH3002	TK43	6.5	5.8	西 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	(不明)	土師器高杯 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	R 区 SH3001	TK209	6.2	6.1	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	R 区 SH3301	TK43	5.7	4.5	北 (やや西寄り)	置き土	(不明)	(不明)	窯みなし			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	R 区 SH3303	TK43	3.9+	3.4+	西	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	R 区 SH3304	TK209	不明		不明	置き土	0.3+	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	S 区 SH1033	TK47	5.8	4.4+	西 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みややあり	土師器高杯 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	S 区 SH1035	TK47	3.8	3.4+	西 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	S 区 SH1037	TK208 ~ 23	5.0	4.8	北 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり	石 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	S 区 SH1050	MT15	3.3+	1.8+	北西 (中央?)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	T 区 SH1009	MT15	4.0	3.7	西 (中央)	置き土?	0.4+	(不明)	窯みありか	石 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	T 区 SH1020	TK209	5.0	4.9+	北西 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり	石 1		香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	V 区 SH6010	TK209	3.1+	1.8+	北 (東寄り?)	置き土	1.0+	B ?	窯みややあり?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	W 区 SH4007	TK43	3.2+	1.3+	西 (中央?)	置き土?	0.2+	B ?	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	Z 区 SH7005	TK47	4.2	4.0	西	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	I - 2 区 SH2301	TK43	7.0	6.1	西	置き土	(不明)	(不明)	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	I - 3 区 SH3001	TK47	5.7	5.7	西 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 1 区 SH1014	TK43	7.2	5.8	北西 (やや北東寄り)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 1 区 SH2303	古墳後期	3.6+	2.7+	北	置き土?	1.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 3 区 SH3301	TK209	6.0	5.7	北 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 3 区 SH3302	TK209	4.4	4.3	北 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みなし?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 3 区 SH3308	TK47	6.0+	5.9+	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 3 区 SH3309	MT15	4.6	4.5	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 3 区 SH3301	TK10	6.0	4.5+	北 (中央)	置き土	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5008	TK217 ~ 48	不明	不明	北 (中軸?)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり		窯みから電を推測	香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5011	TK217	不明	不明	北 (中軸?)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)		焼土から電を推測	香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	L 区 SH5015	TK217	不明	不明	北 (中軸?)	置き土?	(不明)	(不明)	(不明)		焼土から電を推測	香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	Q 区 SH4003	TK217 ~ 46	3.9+	2.1+	北 (中軸)	置き土	1.2+	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	U 区 SH5012	TK217	不明	不明	北 (中軸?)	置き土	1.4+	B2	窯みややあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	V 区 SH6001	7c 後半	4.8	3.5+	北西 (中軸)	置き土	0.3+	(不明)	(不明)			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	V 区 SH6004	TK217	不明	不明	北西 (北東寄り?)	(不明)	0.6+ ?	(不明)	窯みあり?			香川県埋蔵文化財センター編 2013
旧練兵場	II - 1 区 SH1002	TK217	6.0	5.8	北 (やや東寄り)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県埋蔵文化財センター編 2013
弘田川西岸	SH29	TK217 ~ 48	4.2	2.9+	北 (東寄り)	置き土?	0.7+	B1	窯みなし			弘田川西岸
弘田川西岸	SH58	7c 末 ~ 8c 初	3.3	3.0	不明	崩り出し?		(不明)	窯みあり			弘田川西岸
仲村庵寺	SH402	TK217	4.3	4.3	北西 (中央)	(不明)	1.1+	(不明)	(不明)			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH44	?	6.6	6.0	北東 (中央)	(不明)	0.9+	(不明)	窯みあり			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH45	TK217	5.0	5.0	西 (中央)	(不明)	0.8+	(不明)	(不明)			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH46	TK217	5.7	5.0	北 (中央)	(不明)	0.6+	(不明)	(不明)			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH10	TK217	5.7	2.9	北 (中央)	(不明)	1.2+	(不明)	(不明)			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH16	TK217	5.6	5.0	北西 (中央)	(不明)	1.1+	(不明)	窯みややあり			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH17	TK217	5.9	5.6	西 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	窯みややあり			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH18	TK217	7.1	6.0	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	窯みややあり			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH19	TK217	4.0	3.6	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	窯みなし			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH20	TK217	6.2	4.8+	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	窯みなし			普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH26	TK209	6.0	6.3	北 (中央)	(不明)	(不明)	B	窯みなし	石 1		普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH28	TK209	5.1	4.8	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	窯みなし	土製品 1		普通寺市教育委員会編 1989
仲村庵寺	SH30	TK209	3.7+	1.9+	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			普通寺市教育委員会編 1989
稲本	SH41	TK217	4.4	4.5	西 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			稲本遺跡発掘調査団編 1989
稲本	SH45	?	5.3	5.0	北 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			稲本遺跡発掘調査団編 1989
稲本	SH47	?	8.0	7.4	北西 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			稲本遺跡発掘調査団編 1989
稲本	SH49	TK10 ?	8.1	2.5+	北西 (中央)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)			稲本遺跡発掘調査団編 1989
大門	SB03	TK43 ~ 217 ?	6.2	5.5	北 (中央)	置き土?	1.6	B2	台状?			香川県教育委員会編 1987
大門	SB09	TK217	5.5	5.5+	北西 (中央)	置き土?	2.3	B2	窯みなし			香川県教育委員会編 1987
大門	SB10	TK217	4.1	3.2	北西 (中央?)	置き土?	0.4+	(不明)	(不明)			香川県教育委員会編 1987
大門	SB11	TK217	4.3	3.5	北東 (中央)	置き土?	1.3	B2	台状?			香川県教育委員会編 1987
大門	SB12	TK217 ~ 46	5.7	5.2+	北 (中央)	置き土?	1.8	B2 ?	台状?			香川県教育委員会編 1987
大門	SB15	7c ?	4.9	4.4	北 (中央)	置き土?	(不明)	(不明)	窯みあり			香川県教育委員会編 1987
大門	SB19	7c	5.0	5.0+	北西 (中央)	置き土?	1.3	B2	台状?			香川県教育委員会編 1987
大門	SB20	TK217 ~ 48	5.5	5.5	北西 (中央)	置き土?	1.7	B2	台状?			香川県教育委員会編 1987
大門	SB21	7c	4.6	4.1	東 (中央)	置き土	1.1	B2	窯みあり			香川県教育委員会編 1987
大門	SB23	TK217	4.7	4.6+	北 (中央)	置き土	1.3	B2	窯みあり			香川県教育委員会編 1987

第 12 表 香川県内聖穴建物造り付け竈一覧 (2)

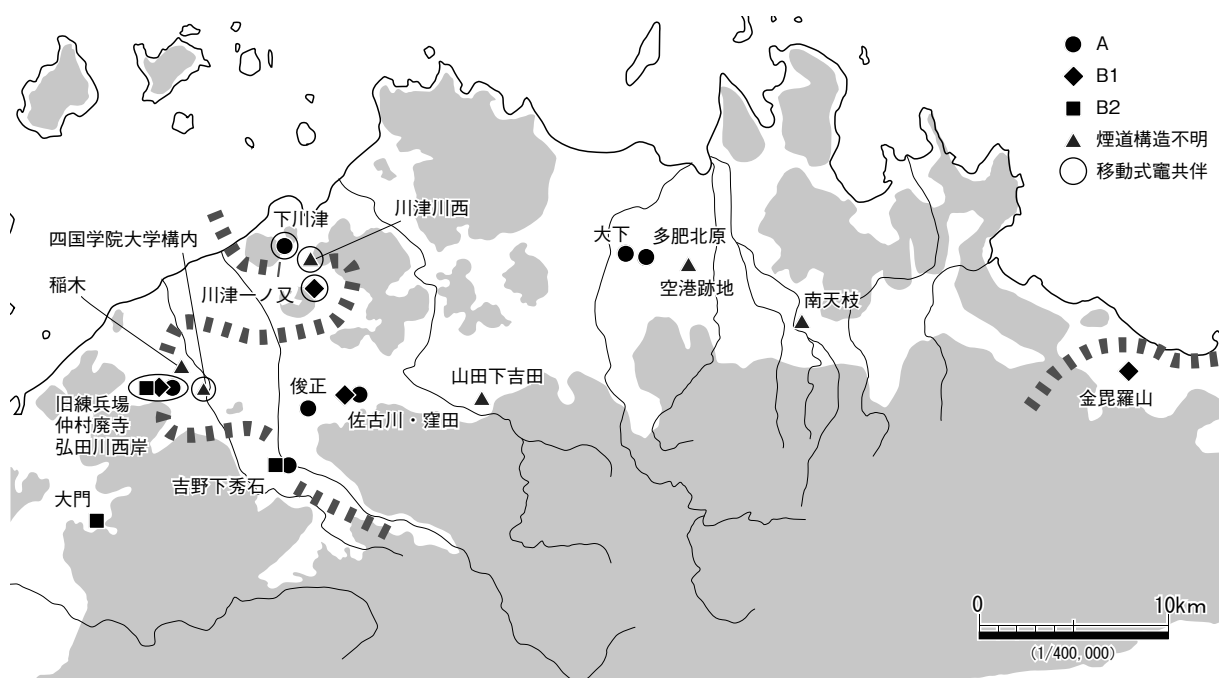
2 基 (SH02・11) についてはいずれも大下遺跡同様、袖部から置き土で構築されている。残存状況が良好ではないものの、6 基の竈も置き土の蓋然性が高い。残る 1 基 (BSH01) には袖部の基部 1～2cm の削り出しが認められるようだ。SH11 の煙道は残りが良く、大下遺跡 SH07 竈 1 と同じく溝状に掘られた後、埋め戻しによって天井部が構築されている。煙道先端部にある SP183 を煙出しの一部とみれば、煙道は若干の傾斜をもって伸び、煙出し付近で垂直方向に屈曲する。TK217 期の高松平野中央部では置き土による袖部の構築を基本とし、緩やかな傾斜 (7°) の煙道をもつ、という竈の構造をほぼ共有する。

2 竈の導入と変遷

高松平野では、空港跡地遺跡の TK47 期の竈穴建物 6 棟に伴う竈が最も古い。同時期の太田下・須川で検出された竈穴建物 5 棟には竈の痕跡を看取できないため、竈出現期の高松平野では竈の受容に差があったようだ。現在のところ、調査中の萩前・一本木遺跡を除いて高松平野では 6 世紀～7 世紀前葉 (MT15～209 期) の竈穴建物が報告されていないため、この間の竈の状況は不明である (註 1)。大下遺跡や多肥北原遺跡を参照すれば、TK217 型式期にはほぼすべての竈穴建物が竈を備えるようになる。

一方、丸亀平野に位置する旧練兵場遺跡では、TK208～23 期の竈穴建物 S 区 SH1037 に竈が設置されており、これが香川県の出現期の例となる。破壊された煙道の状況は不明だが、袖部は床面から置き土で構築、支脚は 1 石のため掛け口は 1 口と推測される。旧練兵場遺跡では、これ以後、7 世紀後半まで連続して竈穴建物が築かれる。多数の遺構が重複するため竈穴建物の全体構造が判明する例は多くないが、TK47 期までは竈をもたない竈穴建物もある。MT15 期以降のどこかで竈を伴う竈穴建物が基本となるのだろう。

香川県内では、TK47 期の空港跡地遺跡例を除いて 2 口の掛け口を有する竈は確認されていない。基本的には一つ掛け竈である。この状況は、西日本が一つ掛け竈を主体とするという杉井健の指摘 (杉井 1993) に合致する。



第 124 図 竈分布図

3 竈構造の地域差

大久保徹也は吉野下秀石遺跡の竈を1・2類に分類した。1類は袖部を竪穴建物床面から置き土で築き、煙道が長く水平に延びるもの、2類は削り出しで袖部の基礎を作出、なだらかな勾配の短い煙道をもつものである。丸亀平野北東部に位置する下川津遺跡では2類が多く、吉野下秀石遺跡を含む同平野西部以西では1類が卓越するという地域性を指摘した(大久保1997)。

袖部構築方法と煙道形状という要素は、良好な残存状況に恵まれることの少ない竈を一定数検討対象とするために有効な指標といえる。高松平野や丸亀平野での資料数が増加した現在、あらためて、この2要素から香川県内の竈を検討してみたい。

竈の袖部は置き土によるものが多数を占め、竪穴建物形成時に袖部の基礎を削り残しておく竈は、下川津遺跡で可能性のある事例が一定割合認められる。下川津遺跡でも主流は置き土の袖部と推測されるが、一定割合を積極的に評価すれば、削り出し袖部は下川津遺跡の特徴ともいえる。

煙道床面は、上方に傾斜しながら煙り出しにいたるものと、水平のものに分類され、ここでは前者を煙道A、後者を煙道Bとする。さらに、煙道床面が煙り出しまで水平なものをB1、先端部付近で一段窪むものB2に細分する。煙道Aは大下遺跡や多肥北原遺跡など高松平野を中心とした地域に分布し、煙道Bは金毘羅山遺跡や丸亀平野以西といった煙道Aの周辺地域にみられる(註2)。特に煙道B2は旧練兵場遺跡、吉野下秀石遺跡、大門遺跡と西寄りの分布が明瞭である。

両要素の分布をみると大久保が設定したような相関関係は少なく、香川県内での地域差は煙道構造により現れているようだ(註3)。

4 造り付け竈と移動式竈

造り付け竈は火を炊いて調理目的で煮炊きするための施設であるが、同様の機能を担うものに移動式竈が知られている。大下遺跡では移動式竈は出土しておらず、竪穴建物に造り付け竈が付設するために移動式竈の必要性がない点を理由としては考えやすい。近隣の多肥北原遺跡でも同様の状況にある。ところが、渡邊淳子による移動式竈の集成や(渡邊2003)、近年の調査成果から得られた移動式竈の出土状況に造り付け竈のデータを重ねると、下川津遺跡や旧練兵場遺跡では造り付け竈付設竪穴建物に移動式竈が伴う事例が判明する。また、川津一ノ又遺跡や川津川西遺跡では、造り付け竈を備える7世紀の竪穴建物には伴わないものの、流路や溝などの遺構から移動式竈が出土しており、同一遺跡で同時期に造り付け竈と移動式竈が存在することは確実である。造り付け竈付設竪穴建物出土の移動式竈について、同建物での使用を断定するまでには手続きが必要と考えるが、両者を備えた竪穴建物の存在の可能性には言及できるだろう。その場合、両竈の機能差や使用局面の差などがその背景として考えられようか。少なくとも、大下遺跡や多肥北原遺跡のある高松平野と、下川津遺跡や旧練兵場遺跡に代表される丸亀平野では、移動式竈の取り扱いに差異がある点は指摘できる。

以上の検討を踏まえると、高松平野に位置する大下遺跡や多肥北原遺跡は、造り付け竈の煙道床面が傾斜する点、造り付け竈に移動式竈が伴わない点から、旧練兵場遺跡などとは煮炊きの場である調理空間の設置や、煮炊きのスタイルが異なることが指摘できる。

註

- 1 以下、萩前・一本木遺跡の内容は高松市埋蔵文化財センターの教示による。萩前・一本木遺跡ではTK10期には竈が確認できるとのことである。

- 2 金毘羅山遺跡は MT15 期で、比較対象の他例が TK43 ～ 217 期であるため、高松平野より東に位置する金毘羅山遺跡で煙道 A が分布するのは地域差ではなく時期差の可能性もある。
- 3 竈が良好な状態で記録された報告は多くない。特に袖部の構造は、竈に対する認識不足が原因で調査データがなく状況不明なものも多い。

第 3 節 高松平野における 6 ～ 7 世紀の集落動向と大下遺跡

1 集落の動向

大下遺跡では TK217 ～ 46 期の竪穴建物 15 棟、掘立柱建物 7 棟を検出している。特に I 区では竪穴建物が数棟重複し、調査対象地外の北方に展開する可能性もある。つまり、この時期に居住遺構が集中して築かれる場所ともいえる。このような大下遺跡の状況を理解するために、高松平野での居住に伴う遺構の変遷を確認したい。

高松平野では、TK23 ～ 47 期に太田下・須川遺跡と空港跡地遺跡で居住遺構が確認できる。現在調査が進められている萩前・一本木遺跡でも同時期の居住遺構があるようだ(註 1)。太田下・須川遺跡は竪穴建物と掘立柱建物で構成する集落、空港跡地遺跡は竪穴建物のみが確認される集落である。また、竈は空港跡地遺跡にのみ導入されるように、集落内の構造や建物構造に差異が認められる。続く 6 世紀には、萩前・一本木遺跡で TK43 ～ 209 期を中心に竪穴建物などが展開するが、それ以外の遺跡では須恵器の出土はあっても居住遺構は確認できない。TK217 期になると、大下遺跡の近隣の太田原高州遺跡や多肥北原遺跡に竪穴建物を中心とした集落が築かれる。多肥北原遺跡では大下遺跡同様、竪穴建物が重複するように配されている。また、高松平野東部の西下遺跡では大型の掘立柱建物 3 棟が確認されており、柱穴や上位の包含層出土遺物から TK217 期と考えられている。

以上をまとめると、TK23 ～ 47 期に高松平野の数箇所に点在していた居住遺構は、直後にははつきりとは見えなくなる。TK43 期には高松平野中央部の萩前・一本木遺跡にある程度まとまった居住空間が設けられ、TK217 期になると 1km ほど北の大下遺跡や多肥北原遺跡で多数の竪穴建物が築かれるようになる。両遺跡では竪穴建物が重複して築かれており、居住地を形成する場に固執しているようにもみえる。西下遺跡のような掘立柱建物数棟の集落もあるが、高松平野、特に香東川右岸の発掘調査事例の蓄積を考慮すれば、大下遺跡周辺の平野中央部に居住遺構が集中する集落が形成されていることは指摘できそうだ。すなわち、大下遺跡の竪穴建物が築かれる TK217 期は、高松平野での居住遺構の増加と集中といった特徴をもつ画期と評価できる。

2 古墳との比較

6 世紀には横穴式石室を主体部とする古墳が築かれ、飛鳥時代に入る 7 世紀にも追送は継続され、一部の古墳の構築も続く。第 121 図には集落とともに古墳のドットも表示している。なお、TK23 ～ 47 期築造と断定できる古墳はなく、以降の古墳についても築造時期や追送期間の認定が明らかな事例は少数である。そのため、図は厳密なものではなく、後期古墳のおおまかな分布傾向を知るためのものになっている(註 1)。

MT15 期以降の図をみると、高松平野での後期古墳の分布は、平野北部の石清尾山と周囲の山塊、西部の五色台山麓、東部の前田丘陵、南部の 4 箇所に集中域がある。これらの古墳の築造基盤を高松平野